

資料 3

阿見町立学校再編計画に係る意見交換会

阿見町立学校再編計画(案)の概要

平成26年11月

阿見町教育委員会 学校教育課

次第

- 1 阿見町立学校再編検討委員会による協議
- 2 小中学校の現状
- 3 児童・生徒数の将来推計
- 4 住民意向のまとめ
- 5 小規模校と大規模校の状況
- 6 再編基本方針
- 7 再編計画

1 阿見町立学校再編検討委員会による協議

阿見町教育委員会の諮問に応じ，小学校及び中学校の再編計画策定に関する協議を行う → 答申

構成委員

地域，保護者，小中学校長，町議会の議員を代表する者
学識経験者

その他，教育委員会が必要と認める者

会議の開催

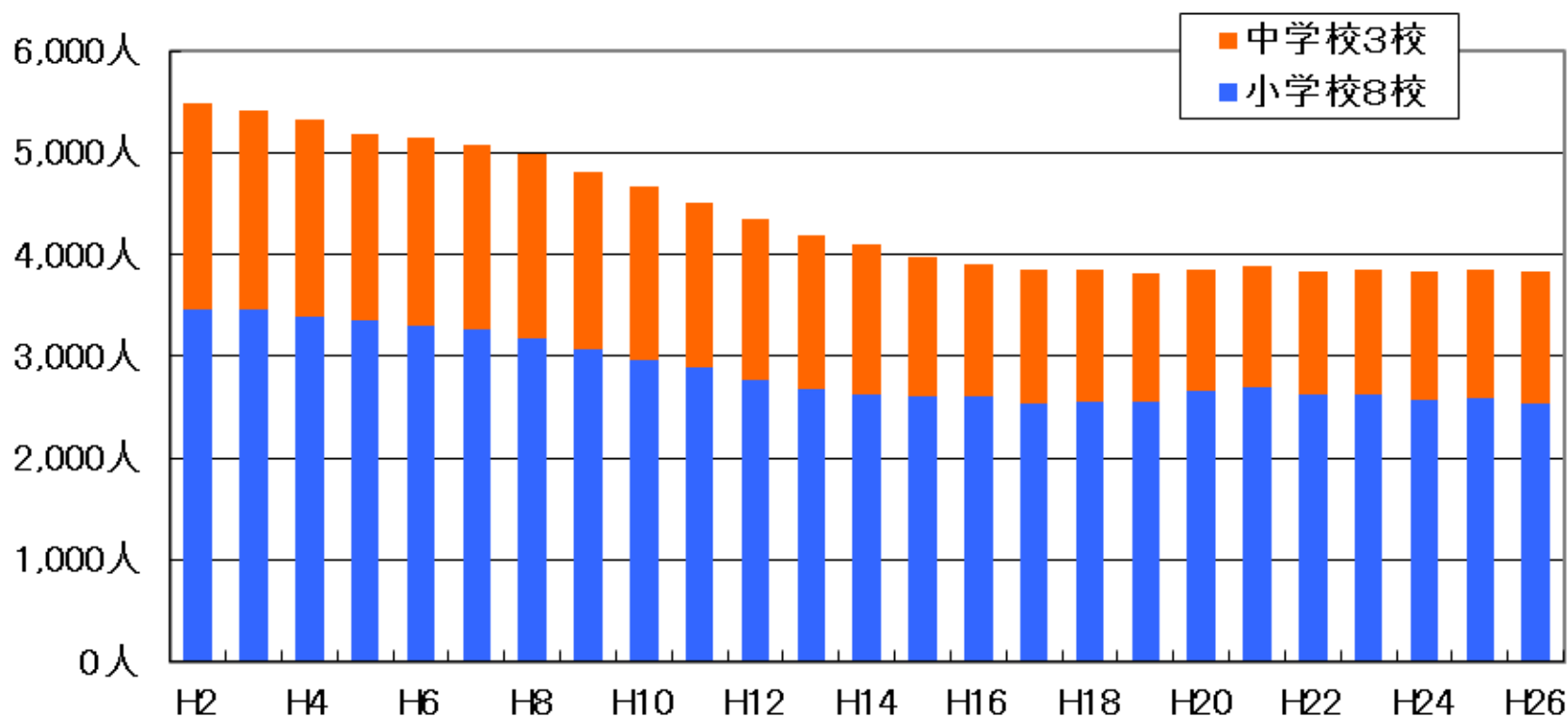
平成25年度 計6回開催 再編基本方針案の検討

平成26年度 計4回開催 再編計画案の検討

(11月まで)

2 小中学校の現状

児童・生徒数

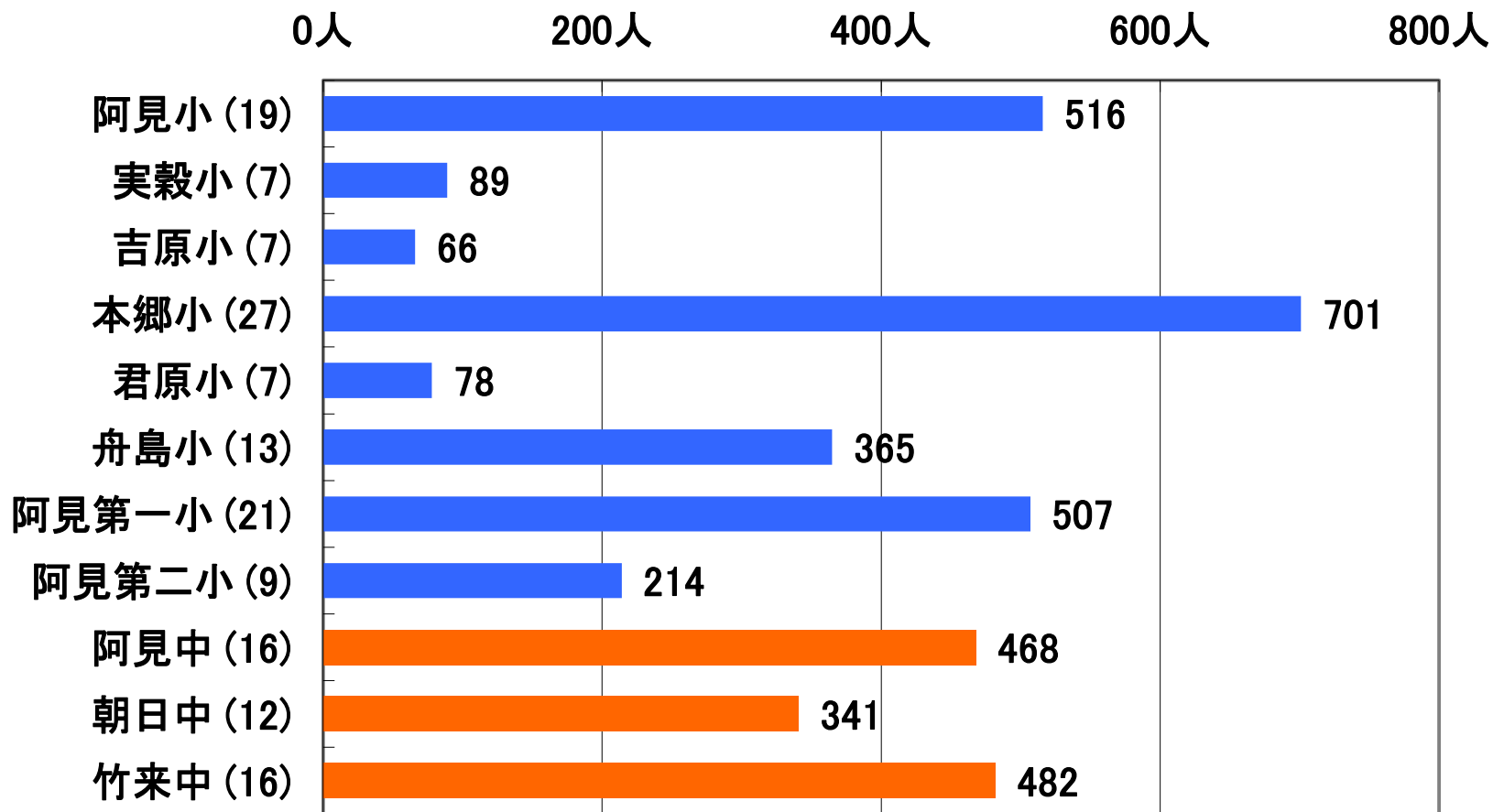


平成26年5月1日現在

小学校 児童数 2,536人

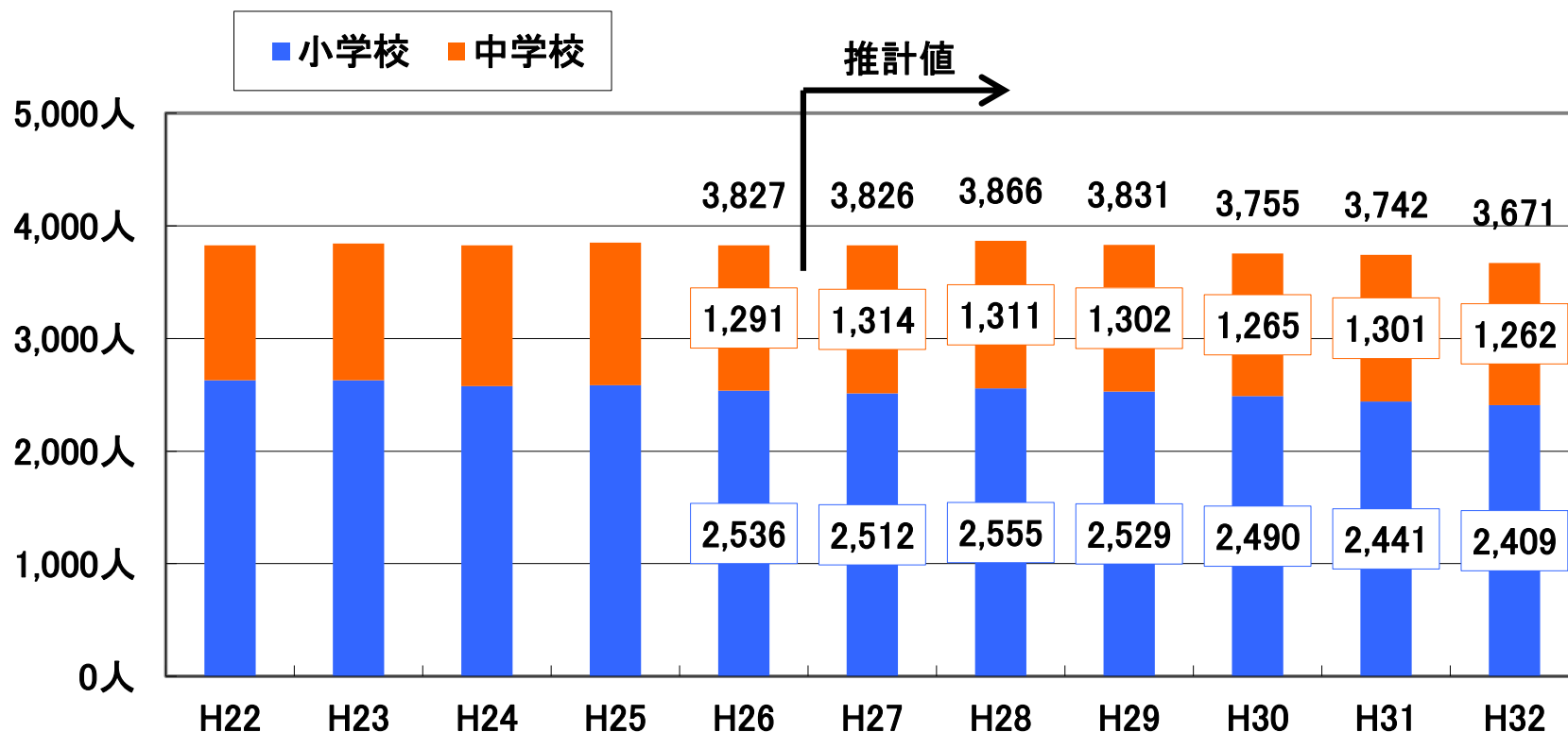
中学校 生徒数 1,291人

児童・生徒数の比較（平成26年）



()内は学級数〔特別支援学級を含む〕

3 児童・生徒数の将来推計

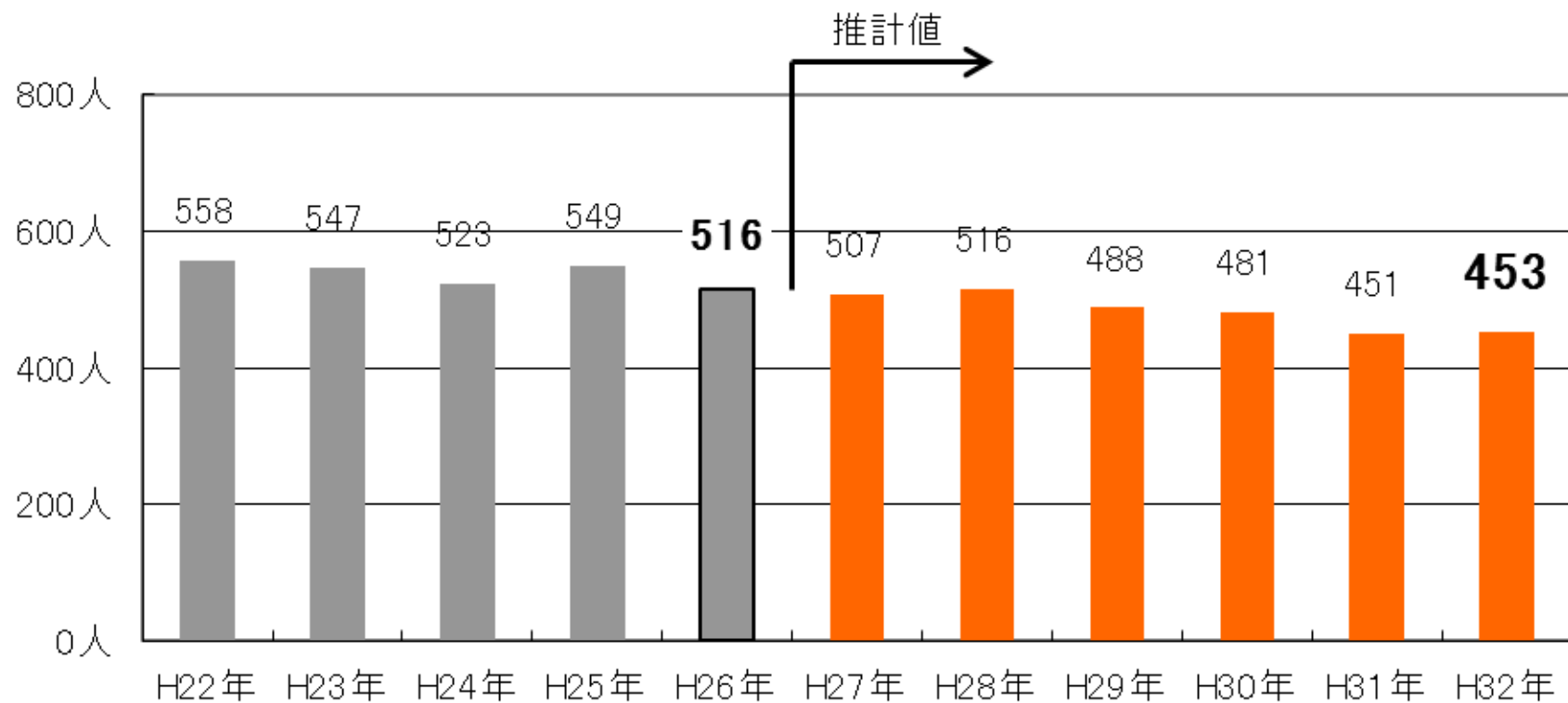


平成26年の5歳児未満の人口がそのまま推移すると仮定した場合

平成32年 小学校 児童数 2,409人 (-127人)

中学校 生徒数 1,262人 (-29人)

阿見小学校



4 住民意向のまとめ

平成25年7月

保護者を対象としたアンケート調査(回答3,129票)

平成25年10月

学校再編に関する意見交換会

平成26年2月

児童・生徒を対象としたアンケート調査(回答819票)

平成26年7月

再編基本方針説明会

1 学年あたりの学級数

- 現状以上の学級数を希望する児童は、クラス替えへのニーズが高い。
- 1 学年 2 学級以上を希望する保護者が多い。

1 学級あたりの児童数

- 1 学級 20 人前後の学校では、児童数が少ないと感じている児童の割合が高い。
- 1 学級あたり 20～30 人を希望する保護者が多い。

学校再編

- **学校再編が必要と考える保護者が多いが、現状のままを希望する意見は全体で3割強、小規模校では4割程度みられる。**
- **小規模校でも子どもへの教育を考え、学校再編を行ってほしいという意見もある。**
- **本郷小学校区では、児童数の増加による教育環境への影響を指摘する声が多く、小学校新設への高いニーズがある。**

通学区域や通学時間

- **通学時間が30分を超えると、通学時間が長いと感じる児童・生徒が4割以上となる。**
- **遠距離通学への配慮として、スクールバス等の運行は不可欠と考える保護者が多い。**

5 小規模校と大規模校の状況

吉原小学校（6学級）

- 一人ひとりに目がとどき，個に応じた指導がしやすい。
- 学校行事で一人ひとりが主役になれる機会が多い。
- 複数の学年による縦割り班活動を行い，なるべく多くの人と触れ合う機会を設けている。
- 現状では問題はないが，いじめが起きた場合などにクラス替え等による対応ができない。
- 教職員一人ひとりの役割が多くなるが，学校規模が小さいため，特に問題にはなっていない。

本郷小学校（20学級）

- 登校班が大人数で編成できる。
- 教職員数が多いことから、多様な意見が出やすい。
- 児童数の増加により、家庭科室、図書室、音楽室などの特別教室を普通教室に変えていく必要がある。
- 運動場が手狭になり、運動会等で保護者席が十分に確保できない。
- 養護教員が一人のため、子どもたち一人ひとりに十分な対応ができない。



6 再編基本方針

学校規模の基本的な考え方

学校教育には、児童・生徒がさまざまな人間関係を体験することにより、豊かな人間性や社会性、思いやりのある心を育てていく役割が強く期待されていることもあり、小中学校の規模は、教育活動や児童・生徒の学校生活を左右する重要な要件のひとつであると考えられます。

このことから、子どもたちにとってより良い教育環境の充実を目指して、学校施設・学校経営・地域との関係の観点、また、国や県の基準などを参考に、阿見町の望ましい学校規模の基本的な考え方を定めます。

望ましい学校規模

① 小学校

1 学年 2 学級以上（概ね 1 学年 2 ～ 4 学級）

※学校全体では 1 2 ～ 2 4 学級

② 中学校

1 学年 3 学級以上（概ね 1 学年 3 ～ 6 学級）

※学校全体では 9 ～ 1 8 学級

適正配置の基本的な考え方

児童・生徒数の減少が予想される中、安定的に望ましい学校規模が確保できない小学校については、統合を視野に入れた段階的な対応が必要となっています。

学校の適正配置にあたっては、これまで学校が地域で果たしてきた役割や地域の事情を十分に配慮した上で、保護者、地域住民、学校関係者などに対し、学級数等の将来推計、学校の小規模化による問題点等について説明するとともに、十分に協議するなど、適正配置の必要性に関する共通理解と協力を得て進めることが必要です。

① 小学校

- ・ 本郷地区に新設する小学校を含めて、町全域の配置を検討する。
- ・ 望ましい学校規模に満たない学校は、遠距離通学の配慮をして、隣接校との統合を検討する。

② 中学校

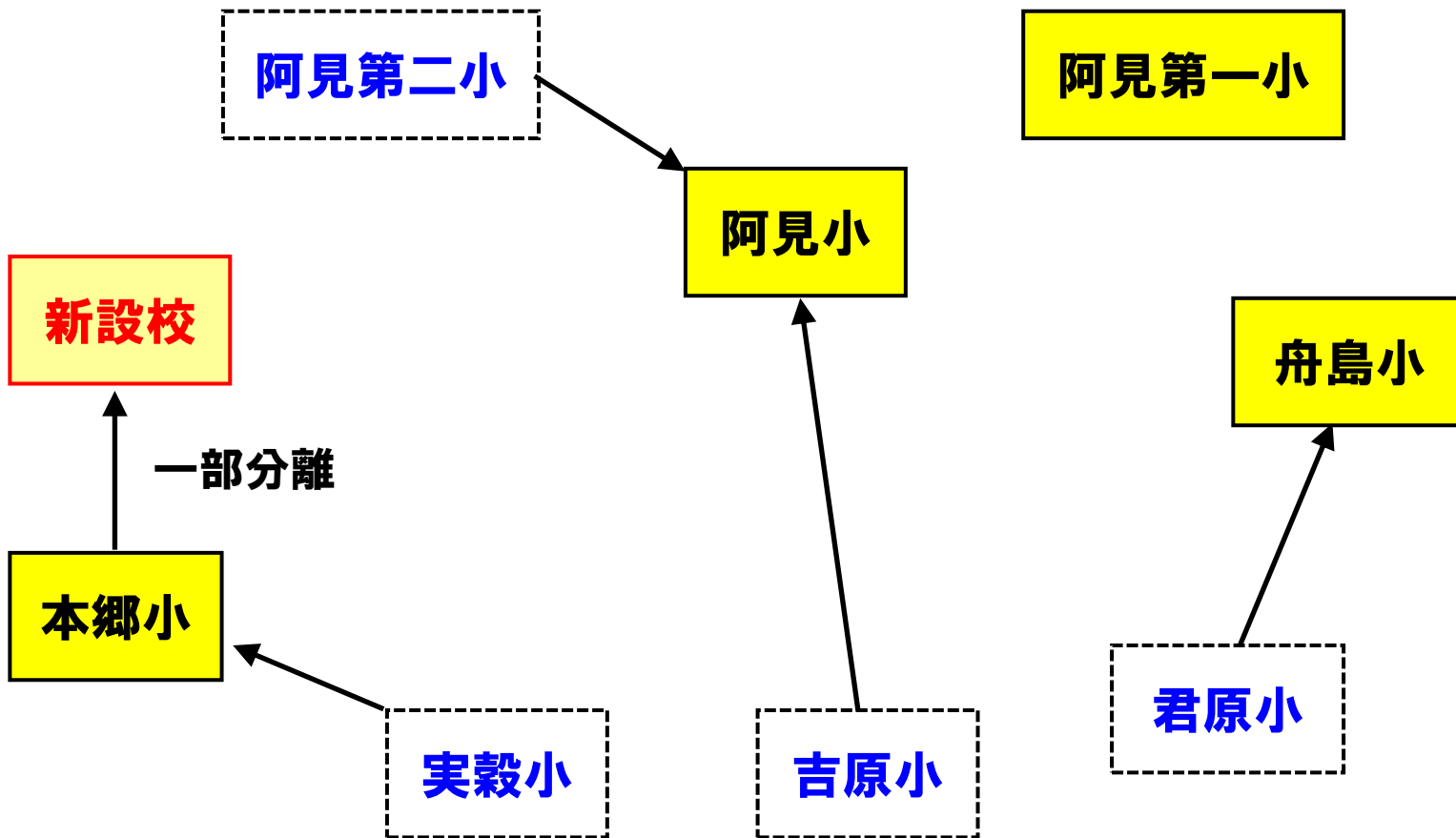
- ・ 望ましい学校規模であるため、現状のままとする。






7 再編計画

具体的な適正配置

- ① 進学する中学校を基本に小規模校を隣接校に統合する。
- ② 実穀小，吉原小，君原小，阿見第二小を隣接校に統合し，本郷小の一部を新設校に分離し5校に再編する。
- ③ 小中一貫教育については，「阿見町教育推進委員会」を充実させ，今後，他の市町村の実施状況等を参考にして，本町の児童・生徒の実態に合った教育について継続して調査・研究を行う。



児童数の将来推計から想定する再編実施時期

| 統合対象校 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度以降 |
|----------------------------|---|--|---|----------------|
| 実穀小 吉原小 君原小 阿見第二小 |  説明会 検討委員会 (各学校) |  統合準備委員会 |  統合校間の交流 | 再編 (統合) |

平成30年度の学校規模（現状のまま）

上段：人，下段：学級

| 平成30年度 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 合計 |
|--------|-----|--------|-----|--------|-----|-----|--------|
| 平成26年度 | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | |
| 阿見小 | 77 | 70 | 81 | 83 | 70 | 100 | 481 |
| | 3 | 2 | 3 | 3 | 2 | 3 | 16 |
| 実穀小 | 16 | 23 | 13 | 20 | 13 | 13 | 98 |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 吉原小 | 8 | 8 | 7 | 9 | 5 | 10 | 47 |
| | 1 | (1) | | (1) | | 1 | 2 (2) |
| 本郷小 | 149 | 152 | 182 | 169 | 142 | 118 | 912 |
| | 5 | 5 | 6 | 5 | 5 | 4 | 30 |
| 君原小 | 10 | 9 | 18 | 12 | 13 | 14 | 76 |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 舟島小 | 14 | 45 | 32 | 36 | 50 | 60 | 237 |
| | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 阿見第一小 | 76 | 66 | 79 | 72 | 60 | 84 | 437 |
| | 3 | 2 | 3 | 3 | 2 | 3 | 16 |
| 阿見第二小 | 27 | 32 | 35 | 35 | 37 | 36 | 202 |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 計 | 377 | 405 | 447 | 436 | 390 | 435 | 2,490 |
| | 16 | 14 (1) | 17 | 16 (1) | 15 | 16 | 92 (2) |

再編後の学校規模（平成30年度の推計）

上段：人，下段：学級

| | | | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 合計 |
|-------|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| | | | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | |
| 阿見小 | 吉原小，阿見第二小を統合 | 阿見中 | 112 | 110 | 123 | 127 | 112 | 146 | 730 |
| | | | 5 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | 26 |
| 本郷小 | 実穀小を統合，一部分離 | 朝日中 | 45 | 55 | 75 | 69 | 35 | 41 | 320 |
| | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 11 |
| 舟島小 | 君原小を統合 | 竹来中 | 24 | 54 | 50 | 48 | 63 | 74 | 313 |
| | | | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 11 |
| 阿見第一小 | 変更なし | 竹来中 | 76 | 66 | 79 | 72 | 60 | 84 | 437 |
| | | | 3 | 2 | 3 | 3 | 2 | 3 | 16 |
| 新設校 | 本郷小から分離 | 朝日中 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | 90 | 690 |
| | | | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 23 |
| 計 | | | 377 | 405 | 447 | 436 | 390 | 435 | 2,490 |
| | | | 15 | 14 | 15 | 15 | 13 | 15 | 87 |

検討委員会と統合準備委員会の設置について

学校再編による統合対象校は、子どもたちにとってより良い教育環境を目指した今後の方向性を検討するために、保護者、地域の代表、教育委員会等で構成する「**検討委員会**」（仮称）を設置し協議を行います。

検討委員会で統合の合意形成が得られた場合は、統合校の保護者、地域の代表、教職員等で構成する「**統合準備委員会**」（仮称）を合同で設置し、学校運営及び学校行事、通学対策、PTA等の組織運営、統合に向けた交流事業や記念事業などについて協議を行います。

本郷地区新小学校の通学区域

遠距離通学に対する通学支援

学校再編に伴い遠距離通学となる児童を対象に，子どもたちの体力・安全面を考慮してスクールバスや路線バス等を活用した通学支援を行います。

スクールバスの運行については，運行方法や本数，ルートなどについて，保護者や学校と協議の上，他市町村の事例を参考にして具体的な検討・決定を行います。

再編後の学校生活における不安への対応

児童及び保護者の不安を解消するため、統合校が合同で設置する統合準備委員会において、地域性等も考慮しながら次の事項の具体的な検討を行います。

- ・ 統合時に統合対象校の児童を複数同一学級に配置することについて
- ・ 不安や悩みを相談できる専任教員の配置について
- ・ 相談しやすい環境の整備について
- ・ 学校生活や授業、友達関係などに関するアンケート調査の定期的な実施について
- ・ 統合校には統合前の両校の教員を配置することについて
- ・ 災害等緊急時の対応について

統合に向けた事前交流

児童及び保護者の事前交流の機会を充実させるために、統合校が合同で設置する統合準備委員会において、当該小学校が実施してきた行事等も考慮しながら次の事項の具体的な検討を行います。

- ・事前交流の実施時期は統合実施年度の前年度とし、具体的なスケジュールは前々年度中に決定する。
- ・事前交流の内容は、授業や校外学習を中心とした交流活動、遠足、夏休みレクリエーション、保護者同士の交流等とする。